

2019年2月22日

株式会社中部プラントサービス

工業技術新聞（2019年2月22日発行）に掲載されました

2018年12月6日から8日に東京ビッグサイトで開催された、インフラ維持に関する展示会「社会インフラテック2018」において、当社が出展いたしました防食技術『マグネラップ』『FRS』について、インフラ維持に有望な技術として工業技術新聞に掲載されました。

また、2019年1月31日発行の日本メンテナンス工業会 会報にも、「メンテナンス・レジリエンス TOKYO 2018」結果報告として「マグネラップ」の紹介記事が掲載されていますので、ご興味のある方はご覧ください。

防食効果20年以上の恒久対策 『マグネラップ』『FRS』

中部プラントサービス



FRS

『マグネラップ』(犠牲型防食システム)は、鉄より腐食しやすいマグネシウム合金板を鋼構造物に特殊な導電性ポリマーを介して密着させることで、鉄に代わってマグネシウム合金板が犠牲的に腐食していく。



マグネラップ施工例

また、マグネシウム板の取り換え時期を過ぎても腐食副生成物が防食効果を発揮する場合もあり、この場合は想定寿命を大きく上回る効果を得ることが可能となることが近年分かってきた。

①素地調整S t 3程度②本質安全の提供③短期で施工でき、騒音や粉塵対応の必要はない④塗膜管理の必要がない⑤規定厚さのマグネシウム板を貼り付けるため、膜厚管理の必要はない⑥旧塗膜との境界部には重ね塗りなどの特別な部分が必要としない(境界部から50~100mm程度まで防食範囲となる)⑦角部の処理が不要⑧角部でも面取りなどの加工を要しない。

中部プラントサービス(名古屋港区大江町三丁目、☎〇五二一六二二一五五九七)技術本部・技術サービスセンターは、東京ビッグサイトで昨年十二月六日~八日まで開催された「社会インフラテック」で、長期にわたり構造物の腐食を防止できる『マグネラップ』『FRS』の技術を用いた水道・ガス・電力・道路・鋼構造物などのインフラ設備の長寿命化対策について紹介・展示し、注目を集めた。

本質安全(鋼材の劣化を許容しない)。マグネシウム板の取り換えにより永久に本質安全を維持することが可能③容易・確実な維持管理④電位測定で数値確認(個人差なし)④短い施工期間④素地調整S t 3程度のため短期で施工でき、騒音や粉塵対応の必要はない⑤塗膜管理の必要がない⑤規定厚さのマグネシウム板を貼り付けるため、膜厚管理の必要はない⑥旧塗膜との境界部には重ね塗りなどの特別な部分が必要としない(境界部から50~100mm程度まで防食範囲となる)⑦角部の処理が不要⑧角部でも面取りなどの加工を要しない。



http://www.chubu-plant.co.jp

『FRS』(防食被覆法)は、どんな形状にも密着するペトローラム系防食テープを素材とした防食システムである。ペトローラムは減圧蒸留残渣油から分離精製した、常温において半固形状のワックスで、蒸発や硬化することなく、常に粘着性をもって防錆防食層を形成する。このため、粘着性、流動性が損なわれない限り、半永久的に防食効果を発揮する。

『FRS』(防食被覆法)は、どんな形状にも密着するペトローラム系防食テープを素材とした防食システムである。ペトローラムは減圧蒸留残渣油から分離精製した、常温において半固形状のものにも完全に密着する。足場が必要な箇所での防食では、トータルコストの削減につながる。また、火気厳禁の工事現場などでも施工は可能。

今後の橋梁維持1000年化のため、国交省では「鋼道路橋の部分塗替え塗装要領」を制定し桁端部の部分塗替えを可能とする取り組みを行っているが、部分塗替えが不可能な部位に『マグネラップ』が活用されており評価が高まっている。

「鋼道路橋の部分塗替え塗装要領」を制定し桁端部の部分塗替えを可能とする取り組みを行っているが、部分塗替えが不可能な部位に『マグネラップ』が活用されており評価が高まっている。

『FRS』(防食被覆法)は、どんな形状にも密着するペトローラム系防食テープを素材とした防食システムである。ペトローラムは減圧蒸留残渣油から分離精製した、常温において半固形状のものにも完全に密着する。足場が必要な箇所での防食では、トータルコストの削減につながる。また、火気厳禁の工事現場などでも施工は可能。

本件に対する問い合わせ先：技術サービスセンター 電話番号052-612-5597